



ホルツィンガー 鵜浦直美 (うのうら・なおみ)さん

幼少期を大船渡(過)す。米

国オレゴン州の北セーラム

ユーク州のメリーマウン

トマンハッタン大卒。米国、

日本、ドイツでの会社勤務を

経て、現在は企画アドバイザー、フリーランスライター。ドイツ・ニュルンベルク市在住。

世界は 今 県人レポート 488

ドイツ ホルツィンガー 鵜浦直美さん(大船渡市出身)



「BIOHASKAP」のブース。ヤシカさんきょうだいによるNUTRACEVIT社が出品した

見本市「欧州仕様」にPEPA発効

を去年に続き取材した。今年30周年を迎えた世界最大級の見本市には、併催の自然コスメ見本市「VIVANES」も含めて過去最多の5万1580人の製造者やバイヤー、業界関係者などが訪れた。実質展

は、10ホールに98の国々からこれも過去最多の327ブース(うち自然コスメ284)が出席した。地球規模の環境保護運動が高まり、ベジタリアン(菜食主義者)やビーガン(動物性原料を取らない完全菜食主義者)と呼ばれる消費

者も、世界的なオーガニック市場の拡大傾向をけん引しているようだ。日本からの参加はドイツ現地法人も含め、昨年と同数の17社。日本貿易振興機構(ジエトロ)は2年連続で日本パピリオンを設置し、調味料(みそ、しょうゆ、酢など)や茶、加工食品(ビスケット、アイス語を語源とするブルーベリーに似た果実で、北海道苫小牧付近とカムチャツカ・シベリアだけに自生する。日本でも本州以南の多くの人には初耳かと思う。)

製造したポーランド人のヤシカさんきょうだい(兄と妹)は、「生命の妙薬」ともいわれるハスカップの不老長寿効果を確信し、地元ポーランドで5年かけて栽培・商品化。念願のEU有機認証を昨年末に得た。消費市場調査独系会社の営業だった手前、見本市では出展商品の特に両極端の反応に注目するが、ハスカップ果汁100%と市場に出回らないデリケートな生の実を賞味して、ヤシカさんたちの情熱に今回はただ感動したのだった。

(日曜日に掲載します)



州の消費者をより意識した新たなマーケティングを語った。

ところで、今回最も印象的だったのが飲料部門。ベスト新製品に選ばれたポーランドの「BIOHASKAP」